

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	62人	算数	62人	理科	62人
第5学年	国語	51人	算数	51人	理科	52人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

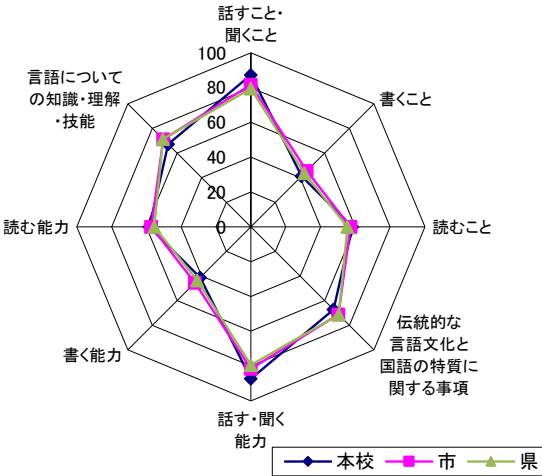
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	87.3	81.6	79.4
	書くこと	41.3	45.4	43.6
	読むこと	58.3	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.2	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	87.3	81.6	79.4
	書く能力	41.3	45.4	43.6
	読む能力	58.3	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	67.2	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

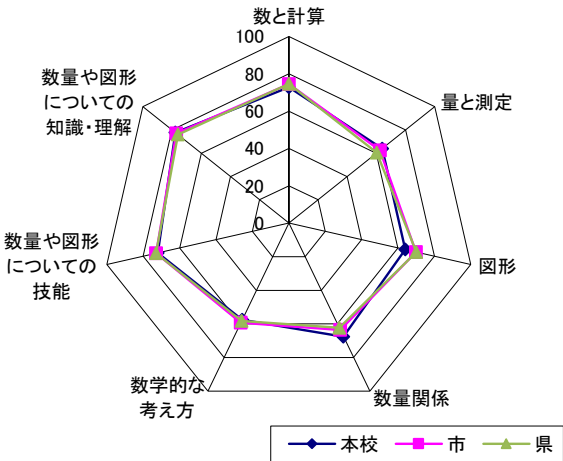
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は87.3%で県の平均を7.9ポイント上回った。 ○全ての問題の平均正答率が高い。特に「理由を挙げながら筋道を立てて話す及び」「話し合いにおいて司会の役割を理解して発言を整理する」問題では正答率は県の平均を大きく上回った。	・今後も伝え合う、話し合う場面を増やし、話し合いの技能を高めていきたい。
書くこと	平均正答率は41.3%で県の平均を2.3ポイント下回った。 ○メモや友達の意見を基に、報告のレポートを書く問題の正答率は40.0%で決して高いとは言えないが、県の平均を上回っている。 ●メモを基に、報告レポートに適切な内容を書き入れる問題の正答率は12.2%で、県の平均を14.4ポイント下回った。	・国語の学習以外にも、資料を基に文章を書く機会を増やしていく。 ・文脈に合った文を当てはめたり、前後の言葉に続くように文を作ったりする活動を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は58.3%で県の平均を2.8ポイント上回った。 ○文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する設問、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読む問題の平均正答率は、県の平均を上回った。 ●中心となる語や文を捉えて読む問題の正答率は50.0%で、市の平均を6.9ポイント下回った。	・文章を読む活動において、一つ一つの言葉に目を向けて読む習慣を身に付けさせる。 ・文章中のキーワードや大切な文を探しながら読む力を身に付けさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は67.2%で県の平均を4.2ポイント下回った。 ●漢字を読む問題の正答率は73.3%で、県の平均を6ポイント下回った。漢字を書く問題も含め、正答率が低い。 ●指示語を選ぶ問題の正答率は58.0%で、県の平均を7.1ポイント下回った。	・ドリル学習、ミニテスト、家庭学習等において繰り返し漢字練習を行い習熟を図る。 ・漢字の意味や複数の読み方や使い方について丁寧に指導する。 ・指示語について、言葉の学習の単元でしっかりと身に付けさせると共に、文章を書く活動や日常生活の中でも正しく使えるよう指導していく。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.8	74.5	74.6
	量と測定	64.0	62.4	60.4
	図形	64.0	69.9	70.1
	数量関係	67.6	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	57.5	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	72.0	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	77.7	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

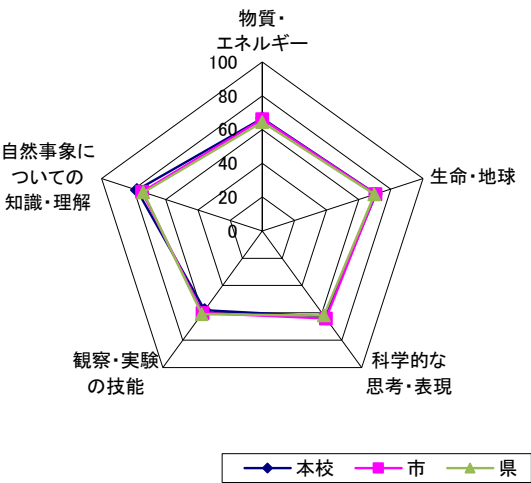
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は72.8%で県の平均を1.8ポイント下回った。 ○余りのあるわり算の答えを確かめる式を完成させる問題の正答率は78.0%で、県の平均を14.0ポイント上回った。 ●整数から小数を引く計算問題の正答率は、72.0%で、県の平均を12.2ポイント下回った。	・ドリル学習や朝の学習、家庭学習等で繰り返し計算練習を行って基礎となる計算力を身に付けさせる。 ・繰り上がりがある問題と繰り上がりがない問題など、計算のパターンの異なる問題を解く練習をする。 ・整数から小数を引くときには、一の位から1/10の位に繰り下げをすることを復習する。
量と測定	平均正答率は64.0%で県の平均を73.6ポイント上回った。 ○ドッジボール1個のおよその重さを選ぶ問題の正答率は84.0%で、県の平均を20.5ポイント上回っており、重さの単位のイメージをつかめているものと考えられる。 ●持っているお金とイベントにかかる料金から、イベントに参加できない理由を説明する問題については、県の平均正答率も23.2%と低い、本校正答率は12.0%とさらに低い。	・方法や理由を言葉や文章、図や式を使って説明する活動を増やす。 ・大切な言葉に印をつけるなどしながら、問題文を正しく読み取る習慣を身に付けさせる。
図形	平均正答率は64.0%で県の平均を6.1ポイント下回った。 ○与えられた一辺の続きを描いて正三角形を完成させる問題の正答率は78.0%で、県の平均をやや上回った。 ●折り紙を2つに折って切った後、広げてできた形を選ぶ問題の正答率は、68.0%で、県の平均を12.1ポイント下回った。	・三角形の種類と定義について確認する。 ・実際に紙を折って切る活動を行って確認する。 ・結果を想像するだけでなく、図に書き入れるなどして、完成図を考えるようにしていく。
数量関係	平均正答率は67.6%で県の平均を5.3ポイント上回った。 ○棒グラフから分かる正しい内容を選ぶ問題の正答率は80.0%で、県の平均を14.6ポイント上回った。棒グラフの棒の長さが同じでも表す人数が異なることを説明する問題も正答率は40.0%と高くはないが、県の平均を上回っており、棒グラフについての理解は深まっていると考えられる。	・様々な場面でグラフを活用することで、グラフのかき方や良さについて理解を深めていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.6	66.1	64.4
	生命・地球	70.7	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	62.7	64.1	61.9
	観察・実験の技能	58.0	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	78.0	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は66.6%で県の平均を2.2ポイント上回った。 ○電気の流れる通ridorの名称を答える問題の正答率は84.0%、1つの乾電池と豆電球と乾電池を使い明かりがつく回路を選ぶ問題の正答率は86.0%で、共に県の平均を大きく上回った。 ●実験結果からプロペラカーの進む距離を推測する問題の正答率は79.5%で、県の平均を13.5ポイント下回った。実験結果からゴムをねじる回数を推測する問題でも正答率は60.0%で、県の平均を8.0ポイント下回った。 ●磁石の性質を基に口を閉じる仕組みの方法を選ぶ問題の正答率は62.0%で、県の平均を8.0ポイント下回った。	・児童と共に実験の結果を基に考察する活動をていねいに行っていく。 ・磁石の性質について復習すると共に、磁石の性質を利用した道具等について考えさせることで、さらに理解を深める。
生命・地球	平均正答率は70.7%で県の平均を0.9ポイント上回った。 ○昆虫の体の色とすみかの関係について考察する問題の正答率は80.0%で、県の平均を14.9ポイント上回った。 ○温度計の適切な操作方法を選ぶ問題の正答率は78.0%で、県の平均を8.6ポイント上回った。 ●方位磁針の適切な操作方法を選ぶ問題の正答率は46.0%で、県の平均を7.8ポイント下回った。 ●記録から日なたの温度を選び、その理由を説明する問題の正答率は、44.0%で、県の平均をやや下回った。	・方位磁針を使って実際に操作方法について確認する。 ・日なたと日かげの温度の変化について復習する。 ・考察やまとめの活動で、大切な言葉を使って説明する機会を増やしていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する設問では、肯定的回答率が県の平均を上回っており、家庭学習の定着が図られてきたと考えられる。さらに自主学習の内容の充実を図るなど、継続して指導していきたい。

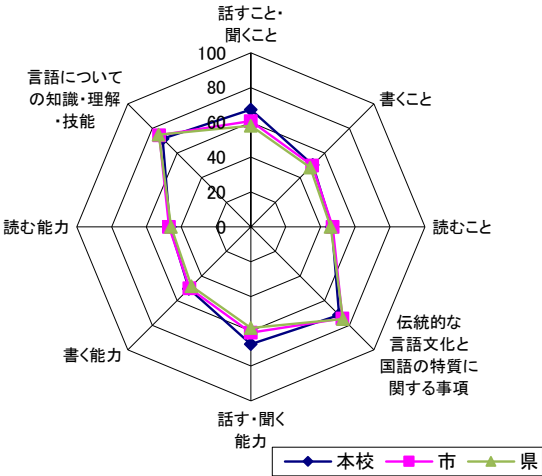
○「自分はクラスの人役に立っていると思う」「自分にはよいところがあると思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」などの設問で肯定的回答率が高く、自己肯定感が高いことがうかがえる。今後も自信をもって学習や活動に取り組んでいけるよう支援していきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが難しい」と回答している児童の割合が66%で、県の平均を7.3ポイント上回っている。国語の「書く」観点でも平均正答率が県の平均を下回っており、書く活動への苦手意識が高いと考えられる。学校として取り組んでいる書く活動に重点を置いた指導を継続、拡充していきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	67.4	60.8	58.1
	書くこと	50.4	49.8	48.3
	読むこと	46.5	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.7	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	67.4	60.8	58.1
	書く能力	50.4	49.8	48.3
	読む能力	46.5	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	71.7	74.4	74.8



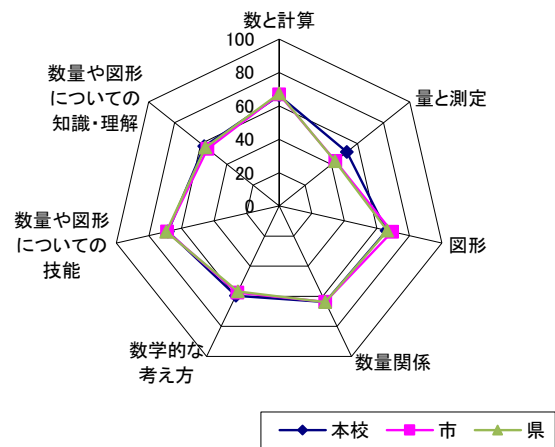
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は67.4%で、県の平均を9.3ポイント上回った。○話し合いにおいて司会者の役割を理解し、進行するときの言葉を選ぶ問題では、正答率が68.1%で県の平均正答率を15.3ポイント上回った。授業にグループ活動を取り入れ、話し合う機会を多く持たせたことの成果だと思う。 ●話し合いの中で意見の共通点を見付ける記述式の問題の正答率は、県の平均正答率を上回ったが他の設問に比べ低くなっていた。記述式の問題に	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中に話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の意見を発表する機会を多くもたせるとともに、だれにでも司会ができるよう経験をさせていく。 ・話し合いの時にはメモを取ることを習慣化させ、共通点や相違点を意識して聞けるように支援をしていく。 ・設定された文字数で記述する問題に多くふれさせながら、解答の仕方に慣れるよう練習させていく。
書くこと	平均正答率は50.4%で、県の平均を2.1ポイント上回った。 ○掲示物の内容に合う資料を選ぶ設問の正答率は78.7%で、県の平均正答率を上回った。 ●インタビューの結果を基に、必要な内容を書く設問の正答率は40.4%で県の平均正答率と同程度だった。また無解答率が25.5%と高く、条件に合わせて書くことに課題が見られる。	・書くことを生活の中に取り入れ、文章を書く活動を多くさせていく。 ・日記や朝のスピーチ原稿を書くことを、継続して行っていく。 ・文字数などの条件に合わせて書く練習を取り入れていく。 ・活動の中で自分の考えを発言する時には、考えをメモや文章に書いてから発表するよう支援していく。
読むこと	平均正答率は46.5%で、県の平均とほぼ同程度だった。 ○説明文で、段落の要点を捉えて要約する設問の正答率は55.3%で、県の平均正答率を7.0ポイント上回った。説明文を読む機会を多くもたせた成果だと思われる。 ●物語文で登場人物についての描写から、心情を想像して答える設問の正答率は44.7%で、県の平均正答率を8.2ポイント下回った。また、無解答率が38.3%で、県の無解答率を23.5ポイント上回った。心	・朝の読書などの読書指導や毎日の音読練習を今後も継続して行っていく。 ・物語文だけではなく、説明文や随筆などの多様な文章に触れる機会を、今後ももたせていく。 ・記述式の解答の仕方に慣れるよう、解答例を提示しながら正しい解答の仕方を指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は71.7%で、県の平均を3.1ポイント下回った。 ○漢字辞典の使い方の正答率は80.9%で、県の平均正答率を13.7ポイント上回った。 ●漢字の部首「たれ」の漢字を選ぶ設問の正答率が51.1%で、県の平均正答率を22.9ポイント下回った。部首を正しく理解していない児童が多いと思わ	・漢字練習に引き続き毎日取り組ませる。 ・漢字に送り仮名や読み仮名をつけて練習したり、熟語で練習したりするなどして、漢字の定着を図る。 ・国語辞典や漢字辞典を身近に置き、常時使えるようにし、使い方を身に付けさせる。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.2	66.9	67.4
	量と測定	51.9	43.2	43.0
	図形	66.0	69.4	66.5
	数量関係	63.8	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	59.6	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	68.3	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	57.4	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

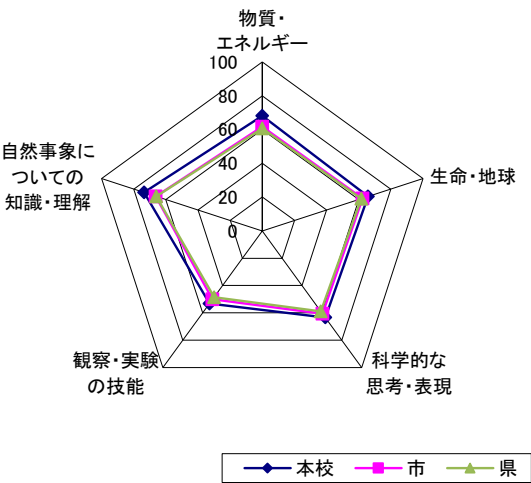
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均より1.2ポイント低い。 ○3位数÷2位数の計算では、県の平均を6.8ポイント上回っている。朝の学習を中心に、基本的な計算練習を繰り返し行った成果だと考えられる。 ●小数(小数第2位)÷小数(小数第1位)の計算は、県の平均を大きく下回っている。	・小数点の位置が違う数字の計算において、小数点の位置を合わせて筆算を行うなどの基本事項の確認を、朝の学習の時間などを用いて復習する。
量と測定	平均正答率は、県の平均より8.9ポイント高い。 ○1mの正方形の辺に1cmの正方形が何枚並ぶかを求める問題では、県の平均より16.3ポイント高かった。 ●1㎡の正方形は1cm ² の正方形何枚分かを求める問題では、習熟に差が見られた。	・「1m＝100cm」などの基本的な知識を応用して、単位換算の思考ができるよう、考え方を復習する。 ・面積や体積などの基本単位について、定義の確認をし、知識の定着が確実にできるようにする。
図形	平均正答率は、県の平均より0.5ポイント低い。 ○式と図に合う複合図形の面積を求める方法を説明する問題では、県の平均を7.4ポイント上回っている。図や式から問題を読み取ることができている。 ●平行四辺形を作図する問題では、県の平均より3.8ポイント低い。	・定規とコンパスのみを用いた作図の仕方を、いろいろな問題のパターンで練習させる。 ・コンパスの使い方不安のある児童に対しては、個別指導を中心に行っていく。
数量関係	平均正答率は、県の平均より0.1ポイント低い。 ○ブロックの並べ方とブロックの個数との関係を式で表す問題では、県の平均より0.8ポイント高い。図や表から2つの数の関係を読み取ることができている。 ●1つの表に、棒グラフと折れ線グラフの2つが表されているものに関して、縦軸の読み取りに課題が見られる。	・縦軸の数値や単位に注意して読み取りをするよう再度確認をする。 ・グラフから読み取って説明文を書かせたり、立式したりする機会を与える。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.1	61.7	60.7
	生命・地球	65.8	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	63.4	60.6	58.9
	観察・実験の技能	53.2	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	73.6	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、県の平均を上回る結果となった。 ○実験を通して検証した事象に対して正答率が高い。特に、「金属・水・空気と温度」では、県の平均より7.6ポイント高く、小問では、20ポイント以上上回る項目もあった。この単元では、実際に実験で検証する課題が多く、その結果、定着を図ることができたと考えられる。 ●理由を説明する記述式の問題に関して、習熟に差が見られる。 ●「ポットを押したときに湯が出る理由が分かる」において、学んだことを実際の生活に直結して考えることが難しく、習熟に差が見られる。	・授業の中で、実験や観察の結果を文章でまとめ、発表をする場を多く設けることで、文章で記述する力を身に付けられるようにする。 ・教科書に記載されている事項に関して、実際の生活の中でのつながりを大切にしたい指導を心掛ける。
生命・地球	平均正答率は、県の平均を上回る結果となった。 ○生き物の1年間の様子について問う問題に関して、県の平均より14ポイント高い。NHKの映像教材を用いて、生き物の1年間の様子を季節ごとに検証した成果であると考えられる。 ●理由を説明する記述式の問題に関して、習熟に差が見られる。 ●方位磁針の使い方に課題がある。 ●「星座の動きを捉えるために適切な記録方法が分かる」において、習熟に差が見られる。	・方位磁針の使い方に関しては、方位磁針を用いた活動の際、常に確認をし習熟を図る。 ・授業の中で、実験や観察の結果を文章でまとめ、発表をする場を多く設けることで、文章で記述する力を身に付けられるようにする。 ・習熟に大きな差が見られた「月や星」などの既習事項に関しては、復習を促し、学習内容が定着できるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習がよくできているほうだと思う」の回答が16.2%で県の平均を上回っている。また、「授業の最後に学習したことを振り返る活動をしている」が15.0%でやはり県の平均を大きく上回っている。これらは、学習の振り返りを毎時間することにより、その時間で学習すべきことをしっかりとおさえられ、理解力につながって学習がよくできていると思う児童が多くなっていると思われる。これからも継続できるよう、毎時間の学習指導の最後には振り返りの時間を設けていきたい。

「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」も11.8%と県平均を上回り、「クラスの役に立っている」という回答にも9.6%と県平均を上回っている。チャレンジ精神をはぐくむ・居がいのある場所として教室が成り立っている様子がうかがえ、今後もそういう場所であれるよう学校全体で児童を認め励ます教育を推進するとともに、友だちのよさを伝え合う活動などを通して、自尊感情の育成に努めていきたい。

●「家の人と学習について話をしている」と回答した児童や、「疑問や不思議に思ったことは分かるまで調べたい」と回答した児童は、県平均を下回り、家庭での学習について保護者が関わりを持ち、少しでも学習について保護者が子どもと話したり辞書やインターネットで調べたりする支援ができるようになると、授業で自分の考えをまとめたり意見を発表したりすることができるようになりそうだ。ぜひ呼びかけてみようと思う。これは、学校での総合的な学習における調べ学習(的確にまとめること)にもつながるので、家庭と連携を図りながら、自主学習等興味をもったものの学習にも取り組めるよう声掛けしていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書くことの指導	・国語以外の学習でも書く活動を取り入れる。 ・朝の学習で書く内容を取り入れる。 ・家庭学習に書く内容を取り入れる。 ・条件に合わせて書く経験を積ませる。	「書くこと」で、5年生では2.1ポイント上回ったが、4年生では2.3ポイント県の平均正答率を下回った。また、条件に合わせて書く力に課題が見られる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
記述式で説明する問題の正答率が低い傾向が見られる。	学習活動の中で文章を書いて説明する機会を増やす。	・自分の考えを理由を加えて書く。 ・算数の考え方を自分の言葉で説明する。 ・実験結果を考察してまとめる。 など